

<IFNA概要>

- 1. 目的**：アフリカにおける食料と栄養に関する**政策の現場実践を促進**
- 2. 期間**：2016年～2025年（TICAD VIにて立上げ）
- 3. 参加国**：下記の当初参加国（10か国）の取組みで得られた成果及び**好事例を全アフリカに展開**
ブルキナファソ、エチオピア、ガーナ、ケニア、マダガスカル、マラウイ、モザンビーク、ナイジェリア、セネガル、スーダン
- 4. 手法**：(1)各国の重要課題、具体的アクションの絞り込み“IFNA Country Strategy for Action(ICSA)”
(2)同時期、同地域における**マルチセクトラルな活動**（農業、保健、水・衛生、教育等）を“Multi-sectoral Synergy Package”として推進
(3)必要栄養素の需要・供給量を踏まえた農業セクターの介入 **“Nutrient Focused Approach”**
- 5. 支援機関**：国際機関等10機関で運営委員会を結成して支援
AfDB, FAO, IFAD, JICA, JIRCAS, NEPAD, UNICEF, WB, WFP, WHO

より高い効果・効率のための JICAの4つの工夫

- 1. 課題別研修**の活用や南南協力、NEPADとの連携を通じて**域内の学び合いの機会を創出し**、全アフリカに成果を普及
- 2. 栄養改善パートナー**（JICAボランティア・専門家等、600名超）からの情報をニューズレターにまとめて、**日本の経験を含め世界中の好事例を共有**。
- 開発金融機関や国連専門機関との協働、日本政府が拠出する資金の活用等を通じた**バイ/マルチ連携の強化**によるシナジーの創出
- 4. 民間**の栄養関連ビジネス確立を支援

JICAの貢献事例①：食と栄養改善プロジェクト（マダガスカル）

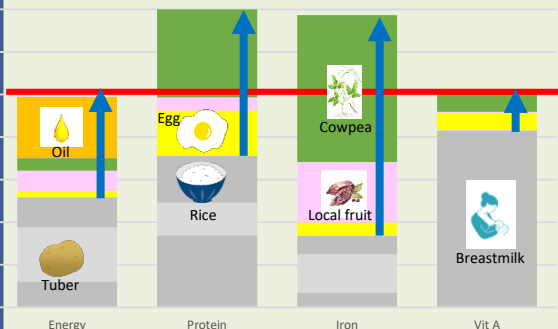
- ✓ **農業・農村開発のアプローチを用いた栄養改善**の推進や政府調整機能の強化を実施（日本で活躍した**生活改良普及員の取組みも参照**）、特に女性と子どもの栄養状態の改善を目指す
- ✓ 同じ対象地域で**世界銀行が実施する保健案件とも効果的に連携**し、マルチセクターによる相乗効果を醸成
- ✓ **JICAボランティア**の知見も活用



ボランティアによる料理講習会の様子

JICAの貢献事例②：Nutrient Focused Approach (NFA) の推進

- ✓ 栄養課題に関連した栄養素の必要量を算出し、それを供給するための**農作物等を地域の实情に合わせて特定**、栄養改善のための農業の役割を明確化する
- ✓ 本アプローチを活用して、**現場レベルでの栄養改善活動や政策レベルでの提言**を実施予定



栄養素毎の不足量を農作物の摂取で改善